

【第1部】教師海外研修概要

1-1 教師海外研修の趣旨

本研修は、国際協力に関心があり、授業やクラブ活動などで開発教育や国際理解教育を実践している小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教員及び指導主事を対象に、開発途上国で国際協力の現場や現地の生活実態を視察し、今後の授業に役立ててもらうことを目的とした研修プログラムです。

兵庫県からの研修参加実績

年度	参加者数	研修国:参加者内訳(人数)		
1996	2	タンザニア:高校(2)		
1997	3	ジンバブエ:中学校(1)	ベトナム:高校(2)	
1998	4	バングラデシュ:中学校(2)	メキシコ:高校(2)	
1999	0	—		
2000	3	モンゴル:中学校(2)	ケニア:高校(1)	
2001	4	ラオス:中学校(2)	ヨルダン:高校(2)	
2002	2	ドミニカ共和国:中学校(2)		
2003	6	ベトナム:小学校(2)	ラオス:中学校(2)	ケニア:高校(2)
2004	6	フィリピン:小学校(2)高校(2)	ラオス:中学校(2)	
2005	6	タイ:小学校(2)中学校(2)高校(1)教育委員会(1)		
2006	8	スリランカ:小学校(2)中学校(1)高校(3)教育委員会(2)		
2007	8	インドネシア:小学校(4)中学校(1)高校(2)教育委員会(1)		
2008	7	インドネシア:小学校(3)中学校(3)高校(1)		
2009	8	ベトナム:小学校(1)中学校(2)高校(3)特別支援学校(1)教育委員会(1)		

※小学校については2002年度から開始（2002年度は兵庫県からの参加者なし。）

1-2 教師海外研修の目的

- (1) JICA 事業の視察や JICA ボランティア（青年海外協力隊・シニア海外ボランティア）及び専門家との意見交換を行い、政府開発援助（ODA）による国際協力事業に対する理解を深める。
- (2) 現地の学校視察及び教員との意見交換を実施し、ベトナムの教育事情を理解する。
- (3) ホームステイやホームビジットを通じて、現地の人々と交流を行うとともに、ベトナムの生活・文化・社会事情を理解する。
- (4) 日系企業やベトナム企業の視察を通じ、日本とベトナムの深いつながりを知る。
- (5) 帰国後の授業実践に活用できる教材や物品を収集する。
- (6) 一連の研修を通じて感じたことや体験したことを基に、授業実践計画を作成し、各所属校で開発教育・国際理解教育の授業を実践する。
- (7) 本研修終了後も、開発教育・国際理解教育を継続して実施し、各所属校及び地域の教員に対して開発教育の普及を推進する。

1-3 2009 年度教師海外研修の流れ

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月 ~ 12 月		1 月	2 月	
4/25	5/28	6/20	7/11	7/29	7/30~8/8	8/10・11	11/27	1/8	2/21
募集説明会	選考結果通知	第1回事前研修	第2回事前研修	第3回事前研修	海外研修	事後研修	授業実践 中間報告	授業実践報告書提出	授業実践報告会
<div>募集期間 4/1~5/18</div>									

1-4 2009 年度 JICA 兵庫実施の海外研修について

(1) 派遣国概要

国名：ベトナム社会主義共和国
 首都：ハノイ
 面積：329,241 k m²
 人口：約 8,616 万人（2008 年）
 民族：キン族（越人）約 86%、他に 53 の少数民族
 言語：ベトナム語
 宗教：仏教（80%）、カトリック、カオダイ教他
 通貨：ドン
 GDP：約 849 億米ドル（約 8 兆円）（2008 年）
 一人あたり 835 米ドル（2007 年）



外務省ホームページ(各国・地域情勢)より

(2) ベトナム選定理由

兵庫県内には、多数の外国籍の住民が暮らしており、ベトナム国籍の住民は 3 番目に多く（2008 年 12 月末現在 4,232 人）、ベトナム国籍の児童が多数在籍する学校もあります。その背景には、日本政府がインドシナ難民の定住促進を目的とした「定住促進センター」を姫路に開設したこととも大きく関わりがあります。そのため、教育現場からは、教師海外研修の派遣先としてベトナムを切望する声が上がっていました。また、私たちの暮らしの中にもベトナム製品を多く見かけるようになり、ベトナムは、急速な経済発展を遂げています。今やその発展に伴う新たな課題も浮かんできています。これら、日本とベトナムのつながり、経済発展とそれに伴う課題、その課題に対する日本政府の支援策などを教員が肌で感じることは、兵庫県教育現場にとって多くのことを還元できると考え、2009 年度はベトナム派遣としました。

(3)海外研修日程表

2009 年 月 日	曜 日	日程	宿泊地
7 月 30 日	木	JICA 兵庫 ⇒ 関西国際空港 ⇒ ホーチミン	ホーチミン
		JICA ベトナム南部連絡所訪問(ブリーフィング・オリエンテーション)	
7 月 31 日	金	ドンナイ省障害孤児センター視察(青年海外協力隊活動現場)	
		日系企業視察「ベトナム味の素有限会社」	
		日越人材協力センター(JICA 技術協力プロジェクト)	
8 月 1 日	土	ベトナム企業視察「Anco Company Ltd」	ハノイ
		ベトナム企業視察「Minh Phuong Furniture Company Ltd」	
		ホーチミン市内視察(ベントイン市場、戦争証跡博物館など)	
8 月 2 日	日	タンソンニャット国際空港ターミナル見学(有償資金協力プロジェクト)	
		ホーチミン ⇒ ハノイ	
		ハノイ市内視察	ハノイ
8 月 3 日	月	リ・トゥン・キット中学校視察	
		JICA ベトナム事務所訪問(ブリーフィング・オリエンテーション)	
		ハノイ水環境改善事業視察(有償資金協力プロジェクト)	
		ハノイ市内書店視察(教材収集)	
8 月 4 日	火	バクザン省小学校視察(青年海外協力隊活動現場)	モーハイ村
8 月 5 日	水	ホアビン省少数民族モーハイ村にてホームステイ(生活状況調査)	
8 月 6 日	木	ホアビン省総合病院視察(無償資金協力+技術協力プロジェクト)	ハノイ
		ホアビン省ドンタム村視察(青年海外協力隊活動現場)	
8 月 7 日	金	日本大使館表敬訪問	機中泊
		チルドレンズパレス視察(青年海外協力隊活動現場)	
		JICA ベトナム事務所訪問	
		「日本人の目から見るベトナムの教育現状」についての意見交換会	
		海外研修のまとめ	
		ハノイ ⇒ 関西国際空港着 (8 月 8 日着)	

ベトナムで見たこと。感じたこと。

写真のコメントは参加者による。



バクザン省の小学校に到着してすぐ。積極的に紙を持ってきて、会話をしようとする児童が多くすごく印象的でした。



モーハイ村でホームステイしたお家の写真です。お屋には一緒に昼寝をしました。そのときのワンショット。



日系企業の多さは予想していたが、それと同じく韓国系企業も多く進出していたことに驚いた。(トラック、電化製品など)



日本と比べて教科書の難易度が高い。ページ数だけでなく、公式数や問題数なども多く、小学生でも日本の中学生レベルの問題に取り組んでいた。



バナナが道端になっているところを初めて見ました。もぎたてを振る舞って下さいました。その甘いこと！



モーハイ村の元村長さんと、バナナのお酒で乾杯しました。46才ということでしたが、落ち着きがあり、人格者でした。



最新型のバイクや携帯を持っている人が多い。ベトナムにはローンがなく、物価から考えると高価でそう簡単には買えないはずなのに。謎です。

ベトナムで見たこと。感じたこと。



街頭には、いすが並べられ、おしゃべりしたり、通り過ぎる人を眺めたりしています。人が好きなんですわ！



隙間を縫うようにして走るバイク。妊婦さんも赤ちゃんも『当たり前』に乗っている様子に、一同冷や冷や！



日本という国が受け入れられていると実感する場面が多々あった。ベトナムという国がより近くに感じられた。



交流会で私は代表として次のような挨拶をした。「この村に来て、私は、子どもの頃に育った田舎を思い出しました。しかし、今の日本は、ビルや道路、工場などが立ち並び、そういった風景は消え去ってしまいました。どうか、この村の誇りともいえる自然と、家族の温かいつながりを、いつまでも大切にしてください。この国の平和と村の皆さんの幸せを、いつまでもお祈りします。」



リ・トゥン・キット中学校にて。日本語クラス生が絵手紙を描き終わり、お別れ前の集合写真。

モーハイ村クリップモーター遊び。小さな子どもは動くものが大好き。



障害のある子どもが集まる施設。家族の愛に恵まれなくとも、愛に触れながら育まれることを切に願う。



ベトナム人が家族を大切にするのは、儒教の影響がある。それと、戦争で家族を失った過去の経験もあるからと言われる。かつての日本が大切にしてきたものが、ここにあり、旅の途中にふと心が落ち着く空間を見つけた気がした。子どもの頃に父親の田舎で過ごした夏休みなど、確かこんな感じであったなとも思った。



ベトナムで見たこと。感じたこと。



ホーチミン。ハノイ。
漢字でこう書きます。関空にて。



女性博物館に入る。歴史・文化においてベトナム女性が担ってきた役割、その活躍ぶりを展示している博物館である。

私が見て印象に残ったのは、銃をかまえる女性の姿であった。男性が働かない理由に、男は戦争など一大事の時に活躍するから…という話を以前に聞いた。だが、この写真を見て、その理由が嘘で、全くとまかしてであることがわかった。そして、この戦争に駆り出されたのは、ベトナムでも特に、少数民族の女性であった。今回の旅で多くの女性や子どもたちの笑顔を見てきた。それがどれだけ私たちの旅の疲れを吹き飛ばし、元気づける力になったことか。

この笑顔を消してはならない。二度と女性や子どもたちを不幸に陥れる時代にしてはならない。そう決意した。



ホームステイ先の台所の様子。水が貴重であること、気候風土に適した住環境であること、環境に配慮した生活を営んでいることを痛感した。



バクザン省の小学校を視察したときのトイレの様子。他の場所ではほとんど見られなかったが、学校のインフラはまだ不十分といえる。



モーハイ村の人々はふだん肉を口にする機会ほとんどないが、私たちをもてなすために尽くしてくれた。子どもたちはのどが渇く私たちのために葉っぱに水をため運んでくれた。

チルドレンズパレスで、日本語で歌を歌った
ときのこと。習い事で日本語を勉強している
ことに印象を受けました。



街角の靴磨き。
ハノイの朝はにぎやか。

参加教員たちは、それぞれの目線で様々な思いを巡らせた。

それは、授業実践につながった。